



「国民年金保険料はきちんと納めましょう」

年金は、世代と世代の支え合いの制度です。あなたの納める保険料が、高齢者世代の生活を支えています。同時にあなたや家族の年金権を守るためにも、保険料は忘れずに納めましょう。

国民年金の給付には老後の生活保障である老齢年金だけでなく、思わぬ事故等により障害が残ったとき障害基礎年金、生計を維持している人が亡くなったときの遺族基礎年金があります。保険料を納付期限までに納めなければ、このような年金を受け取れないことがあります。(納付期限は納付対象月の翌月の末日。ただし、その日が土曜日、日曜日、祝日等に当たる場合はその翌営業日)

また、納付期限から2年間を経過すると納付することができなくなるため、将来受け取れる老齢基礎年金の年金額が少なくなったり、受けられなくなったりする場合があります。

保険料は、社会保険庁から送付される「納付案内書」により、納付期限までに金融機関・郵便局又はお近くのコンビニエンスストア・社会保険事務所で納めてください。

● お得な前納制度

将来の一定期間の保険料をまとめて納める(前納)と保険料の割引があつて大変お得です。前納を希望される場合は、社会保険事務所にご相談下さい。

● 便利で確実な口座振替

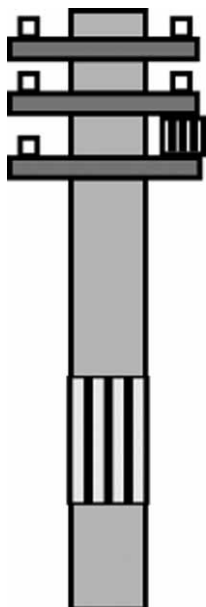
口座振替にすれば、あなたの指定の口座から毎月自動的に保険料が引き落とされます。一度手続きするだけで、毎月金融機関等に出向く必要がなくなり、納め忘れもありません。

また、口座振替でも、一年前納(毎年4月)や半年前納(毎年4月と10月)更に当月分を当月末に納めることができ、こちらもいずれも保険料が割引があります。

手続きは、金融機関・郵便局の窓口で。「国民年金保険料口座振替依頼書」に必要事項を記入して、金融機関等届出印を押印のうえ、お出しください。

<お問い合わせ先>

日高町役場住民課住民・年金G	TEL	01456-2-6182
日高総合支所住民生活課住民・福祉G	TEL	01457-6-3173
苫小牧社会保険事務所	TEL	0144-36-6133



電柱にカラスの巣を見つけたら、 <ほくでん>までご連絡ください。

毎年、春はカラスの繁殖期。カラスが電柱に巣を作るケースが多くなってきます。

巣の材料となる木や金属が、電線などの電気設備と接触しますと、停電の原因となります。

電柱に「カラスの巣」を見つけた場合は、<ほくでん>まで情報をお寄せ下さい。

〔ご連絡先〕

ほくでん 富川営業所 電話 01456-2-0019

※お電話は自動転送のうえ苫小牧支店で賜ります。転送料は当社が負担します。



みんなの力で 日高町を舞台にした映画 「木漏れ日の中で」を 実現させよう！

協賛金についてのご案内

個人

1口 2,000円 (何口でも可)

- 特典
- ・1口につき前売り券1枚進呈
 - ・エンドロールに氏名(1口につき1名)が載ります
 - ・エキストラ出演

法人

1口 30,000円 (複数社可)

- 特典
- ・1口につき前売り券15枚進呈
 - ・エンドロールに会社名が載ります

振込先：苫小牧信用金庫 日高支店

口座番号：1008093

口座名：「木漏れ日の中で」を応援する会

※恐れ入りますが、振込手数料の負担をお願いいたします。

※協賛金にご協力いただいた方、恐れ入りますが住所、氏名、電話番号を、右の問い合わせ先、武石までご連絡下さい。

あらすじ

悩みや心に問題を抱えた生徒達が、山村留学生として日高へやってくる。

心を閉ざした生徒達は、真心で向き合ってくれる先生や町の人と接していく中で希望という光を見出していく。

製作協力

NPO 日本映画映像文化振興センター

理事長 三浦朱門 (元文化庁長官、作家)

原作 沙矢光史

監督 瀬川昌治・後藤俊夫

シナリオ 石森史郎・沙矢光史

映画製作に関するお問合せ先

「木漏れ日の中で」製作委員会事務局
(相伝社内) 担当：山田 但

〒604-0883

京都市中京区楠町610番森ビル49号

電話 075-221-6444

E-mail : soudensha.eco@w7.dion.ne.jp

協賛金に関するお問合せ先

- ・武石秀雄 (産業学習第1期生)

携帯090-2696-4541

E-mail : takeishi0773...@docomo.ne.jp

- ・細砂光太 (産業学習第1期生)

携帯090-6659-2349

E-mail : buitti@t.vodafone.ne.jp

挨拶

20年前の春、雄大な自然に囲まれた日高に産業の一期生としてやってきました。

私が日高へ来た当初は、まだ寮が建設中で、国少や高原荘で寝泊まりしながら産学や高校の授業を受けていたことを今でも鮮明に覚えています。

日中は産学、夜間は高校へ通うという生活の中で、誌面に書かれた尊言を読み聞かせるのではなく、生身で私達とどこまでも向き合い、失敗や間違いを許してくれる懐の深い町教委や高校の先生達、面倒見のいい町の方々などに守られながら、何よりも大切に価値のある経験を得ることができた心から感謝しています。

その感謝の気持ちが、脚本までの5年という時間を支え続けてくれました。

通常の映画とは違った製作になるため、皆様のお力が不可欠であります。

何卒、ご協力お願い申し上げます。

産業学習第1期生 細砂光太

「木漏れ日の中で」脚本 沙矢光史